

意見交換会の結果

白井市の魅力や、白井市での暮らしに対する問題やニーズについて、多様な意見を把握するために、白井市民を対象としたワークショップを開催しました。

表 ワークショップの開催概要

合計 207名

ワークショップ	対象者	開催日	開催場所	参加者数
気軽に本音で SHIROI トーク	全市民	令和6年4月25日(木)	市役所本庁舎	22名
		令和6年4月27日(土)	市役所東庁舎	25名
しろいの未来作 戦会議	小学生	令和6年5月12日(日)	保健福祉センター	17名
	中学生	令和6年5月12日(日)	保健福祉センター	16名
	高校生 若い世代	令和6年5月19日(日)	保健福祉センター	24名
タウンミーティ ング	全市民	令和6年5月26日(日)	白井コミュニティセンター	5名
		令和6年6月1日(土)	白井駅前センター	14名
		令和6年6月1日(土)	公民センター	22名
		令和6年6月2日(日)	西白井複合センター	23名
		令和6年6月2日(日)	富士センター	14名
		令和6年6月23日(日)	桜台センター	25名



気軽に本音で SHIROI トーク



しろいの未来作戦会議



タウンミーティング

図 ワークショップ開催の様子

(1) 気軽に本音で SHIROI トーク

第5次総合計画の基本理念である「安心」「健康」「快適」を基に、それぞれの白井市とはどんなまちなのか、意見を交わしました。

安心な白井市とは

災害時の対応、人口減少、人とのつながり など

健康な白井市とは

・活動場所 アクティブシニア 若い世代 など

快適な白井市とは

・商業施設 交通利便性 豊かな自然 など

(2) しろいの未来作戦会議

興味のあるまちづくりのテーマを事前に考えて当日発表し合い、それぞれのテーマについてグループで意見交換した後、10年後の理想の白井市を掲げてもらい、更には、理想の白井市を実現するために自分たちにできることを考えてもらいました。

	小学生 (4～6年生)	中学生 (1～3年生)	若い世代 (高校生～30歳代)
理想の 白井市	★色々な人たちとの関わりを増やし楽しめるまち ★安心して簡単に移動できる白井市 ★自然、イベント、人を集める ★梨によって笑顔の輪が広がる白井市、梨を大事にする白井市	★様々な人が暮らしやすく、市全体がにぎやかで楽しくオシャレなまち ★梨を入り口に住みやすさに特化したまち ★治安が良く、どの世代も楽しめる「田舎の最先端」 ★イベントを通じて思い出ができ、人との関わりができ、活気のあるまちとなり、白井市を知ってもらえる	★結局、戻りたくなる実家 しろい市 (転出した人が子育ての時に戻りたくなるまち) ★特産品の梨や魅力を広め、老若男女が市内外の人が集まれるまち ★市外の人も高齢者もみんな交通の便が良くてあそぶ場所があるまち ★SDGsを大切にし、若い子育て世代が安心して住めるまち ～なんだかんだ白井が良い！～ ★若者も高齢者も市内で過ごしやすい居場所・拠点のあるまち ★安心・安全で地域活性化して人が来たくなるまち ★「家族」で楽しく、暮らしやすいまち ～動物も転入者も家族～
自分たちで できる 事	・職業体験をする ・ボランティアに参加 ・今ある施設、学校を使ってイベントを行う ・こどもたちでできるイベント開催 など	・自分たちが白井市を知ること ・近所づきあいを大切にしていく ・自然を大事にする ・白井市のインスタで子どもたちが情報発信する など	・地域コミュニティに参加する ・政治に関心を持つ、選挙に行く ・企業誘致を市民から頼む ・みんなでPRキャンペーン など

(3) タウンミーティング

「10年後の白井市のために」をテーマに掲げ、市全体に係る意見や、その地区に特化した意見を話し合ってもらいました。

表 市民が認識する白井市の課題と主な意見

白井市の課題	主な意見	
アクティブシニアの増加	・ 積極的な外出し、健康寿命を延ばす	・ 健康でまだ働ける高齢者が多い
主に若い世代の住みやすさと働きやすさの両立	・ 静かで暮らしやすい ・ 共働きで都内勤務の場合、子育てとの両立が大変	・ リモートワークできる環境づくりがほしい
誰でも移動しやすい交通環境	・ 公共交通が不便で、高齢者は免許返納後の移動手段がなくなる ・ バス以外の新たな移動手段が必要	・ 不便だと外出機会が減り、健康にも影響がでる ・ 凸凹な道路は車いすやベビーカーで移動しづらい
外国人の受入・交流環境の整備	・ 就労や居住の環境づくり ・ 言語の壁がありコミュニティに入ってもらえない、ルールをうまく伝えられない	・ 不法就労やヤードが増えることは避けるべき
出入りしやすい地域コミュニティやイベントの活性・持続	・ 共働きで時間がない、役員の負担が大きいなどの理由から、若者が新たなコミュニティに入りにくい ・ 何気ない顔見知りなど、ゆるやかなつながりを求めている	・ 切り捨てるのではなく、次の世代の負担を減らしながら、今に合ったやり方で引き継いでいく必要 ・ 自治会への加入率の減少で、役員の負担が大きく維持が困難
だれもが気軽に集まり交流できる場所の創出	・ 学生や若い世代が集まる空間、施設がほしい	・ ふらっと立ち寄れる場所がほしい
持続的な農業、農業へのかかわり	・ 100%ではないが農業に関わりたい ・ 農家の担い手不足への対応が必要	・ 子どもの頃の良い体験が思い出となり、地域愛着を育む
環境資源、工業団地等の現状と魅力、誇れるものの維持とPR	・ 子ども達に地域の取組の体験や学習の機会を設け、現状の魅力や問題を知ってもらう ・ ヤードが旧地区に集まる、治安が悪くならないか不安	・ 清水口の白鳥スポット等、小さな魅力を共有して広げたい ・ 今井の桜や田園風景を残したい
機能や景観も重視したインフラの整備・維持	・ まちの顔としての駅前空間の再整備	・ 農地の保全活用、ヤードの規制
既存の魅力を損なわず利便性等が向上する企業の誘致と再整備	・ 白井は住みやすさが強みであり、賑わい施設などは近隣市と連携していけばよい	・ 集客施設を含めた企業誘致が必要
空き家・既存施設、資源の利活用	・ 賃貸住宅の需要に対して供給がないが、空き家・空き地は増えている	・ 新たなニーズを取り込んだ施設の改修
災害への備えと対応の確立	・ 災害時に備えて、日常から近所のつながりを持つことが重要	・ 自治会に所属しない人は防災訓練に参加できているのか
産官学連携や魅力ある学校づくりと学生との交流	・ 環境資源や農業の実態、インフラ老朽化などを地域学習で知ってもらうことが重要 ・ 学校の授業で地域の取組に参加して、地域の活動を知る	・ 子育てや教育分野に手厚く支援してほしい ・ リスキリングできる機会がほしい
情報共有の促進	・ 市民が欲しい情報が届いていない	・ 色々なイベントについて知る機会があれば、積極的に参加したい

●現行都市マスタープラン 将来像

ときめきと みどりあふれる 快活都市

●現行都市マスタープラン 都市づくりの戦略プラン

戦略 1. 暮らしやすい都市づくり

- 多様な暮らしを受け入れられる住環境整備
- 多世代住居の住環境整備

戦略 2. 緑が包む都市づくり

- 緑の風景の保全と継承
- 緑に触れる空間の整備
- 緑を活かしたにぎわいづくり

戦略 3. 拠点がつながる都市づくり

- 拠点づくり
- 交流の場づくり
- 拠点・交流の場のネットワーク

●5つの視点からみた現況（各種データ・アンケートから）

1. 人口・生活

- 人口の自然減、社会減ともに進んでいる
- 1世帯当たりの人口数が減少傾向
- 市内の世帯数の約24%は65歳以上のみの世帯
- 定住継続を希望する高校生・若年層は2割にとどまる
- 駅前の飲食店・商業施設等にぎわいづくりを求める声が多い

2. 土地利用・産業

- 千葉県の内陸工業団地で最大規模の白井工業団地が立地
- 商店街や工業団地の活性化、企業誘致の推進絵への市民満足度が低い
- 市内の半分以上が自然的土地利用
- 未開発の市街化区域は限られる
- 耕地面積は減少傾向である一方、耕作放棄地が増加傾向
- 成田空港拡張や北千葉道路延伸によるポテンシャル

3. 都市施設・公共施設等

- 千葉ニュータウンの街びらきから45年が経過し、公共施設などの更新時期を迎えている
- 人口1人あたり都市公園面積は、千葉県全域、隣接5市の中で高水準
- 休日・夜間・緊急時の医療体制は市民の重要度は高いが満足度は低い

4. 交通・移動

- 隣接5市と比較して、自動車の分担率が高い
- 高齢化に伴い、自動車を運転できない市民が増加する可能性
- 鉄道の運賃・バスの利便性の市民満足度が最も低い

5. 減災・防災・防犯

- 住宅、市有建築物の耐震化率は、それぞれ92%・95%
- 風水害については、ニュータウン以外の地域が被害を受けやすい傾向
- 市民の自治会加入率は減少傾向

●課題

- 高齢化の進展を見据えた環境整備
- 居住地としての魅力向上（特に、子育て世代）
- 持続的な地域コミュニティづくり
- 産業の活性化
- 白井駅・西白井駅などでのにぎわいづくり
- 健全な農地の保全
- 土地の合理的利用
- 成熟したニュータウンへの対応
- 都市施設、公共施設等の維持管理、更新
- 自然環境の保全・共生
- 医療・福祉の体制づくり
- 道路網の整備・維持管理
- 自動車への依存からの転換への対応
- 公共交通の利便性向上
- 災害に強い都市構造の構築
- 住民主体の防災力・防犯意識の向上

【第6次総合計画（令和8～17年度）基本構想構成（案）】

●将来像の3つの要素（案）

まちの発展に必要な「人の営みによる循環」を継続する

様々な社会問題に立ち向かうために、前に向かって新しいことに挑戦する

これまで築いてきた白井市の価値を大切にし、継続して守っていく

●10の重要なテーマ

- (1) 子育て環境の充実
- (2) 人生100年時代に向けた健康と福祉
- (3) 良好な住環境の維持・整備
- (4) 産業の振興
- (5) 企業の誘致・雇用の創出
- (6) 居場所・交流の場の創出
- (7) 施設・インフラの維持管理や利活用
- (8) 移動・交通手段の充実
- (9) 防災・防犯の推進
- (10) 環境の保全と活用

3つの視点
挑戦と守りと循環

●6つの目指すまち（案）

- ①若い世代が定住するまち
- ②自ら学び育ち挑戦できるまち
- ③新しい産業が栄えるまち
- ④交流し支え合うまち
- ⑤白井らしい環境が残るまち
- ⑥災害に強いまち

改訂版都市マスタープランにおける
将来像や戦略プランを検討